



## ベスト プラクティス

---

- [クラスタ検出, 1 ページ](#)
- [アップグレード, 2 ページ](#)
- [ESXi ホスト, 2 ページ](#)
- [VM の移行およびインストール, 2 ページ](#)
- [移行前, 2 ページ](#)
- [移行後, 3 ページ](#)
- [タスクの検証, 4 ページ](#)
- [Cisco Prime Collaboration Deployment シャットダウン, 4 ページ](#)
- [タスクのモニタリング, 4 ページ](#)
- [SFTP データストアでのファイルの管理, 5 ページ](#)
- [Cisco Prime Collaboration Deployment の COW との使用, 5 ページ](#)
- [移行中のシーケンス, 5 ページ](#)
- [サーバの再アドレス付け, 5 ページ](#)
- [パブリッシャおよびサブスクリバのフレッシュインストール, 6 ページ](#)
- [Unified CM および IM and Presence クラスタのフレッシュインストール, 6 ページ](#)
- [E メール通知, 6 ページ](#)
- [テスト電子メール, 6 ページ](#)

## クラスタ検出

クラスタの検出中、小さい .cop ファイルが検出中のサーバにインストールされます。そのため、ディスカバリを開始する前に、検出するクラスタ内のサーバ上でアップグレードやCOPファイルのインストールが実行されないことを確認してください。

# アップグレード

Cisco Prime Collaboration Deployment Upgrade タスクからアプリケーションサーバ（Cisco Unified Communications Manager、IM and Presence サービス、Cisco Unified Contact Center Express、または Cisco Unity Connection）のアップグレードを開始した場合、アップグレードは Unified Communications アプリケーション GUI または CLI から起動されたのと同じ方法で機能します。結果として、アプリケーションサーバ GUI から直接実行したアップグレードと同じアップグレード前およびアップグレード後の検証に従うことをお勧めします。

## ESXi ホスト

移行またはフレッシュインストールに使用される VM が、Cisco Prime Collaboration Deployment システムに入力された ESXi ホスト上にあることを確認してください。この ESXi ホストは DRS または vmotion を許可するように管理することはできません。

## VM の移行およびインストール

インストールする UC アプリケーションに対する適切な OVA を使用して新規クラスタに対する VM を常に作成します。既存の VM を移行の宛先 VM として使用しないでください（新規作成した VM を使用する必要があります）。移行失敗後、Cisco Prime Collaboration Deployment が新規 VM のインストールを開始した場合、この VM は適切な OVA を使用して新規 VM が作成された後に削除する必要があります。

## 移行前

### 送信元クラスタ

- クラスタ上で Disaster Recovery System（DRS）を使用してフルバックアップを実行することが推奨されます。
- TFTP サーバの TFTP フォルダのサイズを確認することをお勧めします。多くのファームエンドポイント COP ファイルが TFTP サーバ上にインストールされていて、TFTP サーバ上の TFTP ディレクトリのサイズが 2.5 GB より大きい場合、/usr/local/cm/tftp ディレクトリ内の使用しないサイズの大きいファームウェア ファイルを削除することを強くお勧めします。

以下の手順は、TFTP スペースの使用率を確認する方法について、また必要に応じて、Cisco Prime Collaboration Deployment を使用した移行を実行する前に TFTP サーバ（送信元ノード）上で TFTP ファイルを削除する方法について説明しています。

## TFTP ディレクトリのディスク使用率の確認

TFTP ディレクトリのディスク使用率を確認するには、次の手順に従ってください。

### 手順

- 
- ステップ 1 CLI コマンドを使用してログインします。
  - ステップ 2 コマンド `admin:show diskusage tftp` を入力します。
  - ステップ 3 行 `/usr/local/cm/tftp/` (出力の最後に表示されます) に対するディスク使用率出力を確認します。
  - ステップ 4 `/usr/local/cm/tftp` ディレクトリのディスク使用率サイズを確認します。  
(注) サイズが 2.5 GB を超過しないことが推奨されます。超過する場合、一部のファイルを削除してサイズを削減してください (下記の手順を参照)。これらのファイルが将来必要となる場合は、削除する前にバックアップを別のサーバにコピーします。
- 

## TFTP ファイルの削除

TFTP ファイルを削除するには、次の手順を使用します。

### 手順

- 
- ステップ 1 TFTP サーバの Cisco Unified Operating System Administration の GUI にログインします。
  - ステップ 2 [Software Upgrades (ソフトウェア アップグレード)] に移動し、[TFTP File Management (TFTP ファイル管理)] を選択します。
  - ステップ 3 TFTP ファイルのリストを表示するには、[Find (検索)] をクリックします。
  - ステップ 4 削除する TFTP ファイルのチェックボックスを選択します (複数のチェックボックスを選択することで複数のファイルを同時に削除できます)。
  - ステップ 5 [Delete Selected] をクリックします。
  - ステップ 6 ファイルを削除したら、上記の手順を使用してディスク使用率を再び確認します。  
(注) クラスタに1つ以上の TFTPサーバがある場合、上記の手順を同じクラスタ内の各 TFTPサーバに対して繰り返す必要があります。
- 

## 移行後

以下の移行後のベストプラクティスに従ってください。

- エンドポイントの確認

- データベース複製の確認。たとえば以下のようになります。

```
admin:show perf query class "Number of Replicates Created and State of
  Replication" ==>query class :
- Perf class (Number of Replicates Created and State of Replication)
  has instances and values:
ReplicateCount -> Number of Replicates Created = 676
ReplicateCount -> Replicate_State = 2
```

以下のリストに、Replicate\_State の取りうる値を示します。

- 0 : レプリケーションが開始しない。これは、サブスクリバが存在していないことが原因です。または、Database Layer Monitor サービスが現在実行されていない上にサブスクリバをインストールした後も実行されていないことが原因です。
- 1 : 複製は作成されたが、数が間違っている。
- 2 : レプリケーションは良好である。
- 3 : クラスタ内のレプリケーションは不良である。
- 4 : レプリケーションのセットアップに成功しなかった。

## タスクの検証

タスクが手動開始としてスケジュールされている場合、または後で開始することがスケジュールされている場合、[Validate (検証)] ボタンが表示され、タスクの検証を手動で実行できます。VMがないこと、通信の問題、.isoファイルがないことなどの問題を識別するため、開始前にタスクで検証を実行することをお勧めします（開始前のどの時点でも実行できます）。検証が実行されると、システムは検出された検証の問題のリストを示すポップアップウィンドウを表示します。問題が検出されなかった場合、「All validation tests passed（すべての検証テストにパスしました）」というメッセージが表示されます。

## Cisco Prime Collaboration Deployment シャットダウン

最適な結果を得るには、Cisco Prime Collaboration Deployment サーバをシャットダウンするときに「utils server shutdown」のコマンドを使用します。これを実行しないと、ESXi ホストで NFS マウントの問題が生じる場合があります。

## タスクのモニタリング

タスクのステータスを表示するには [Monitoring GUI (GUI のモニタリング)] ページを使用します。左側の列のタスクをクリックすると、タスク詳細が右側に表示されます。タスクの各ステップ（エクスポート、インストールなど）は詳細セクションの下の [Task Status (タスクステータス)] テーブルに表示されます。手順に対する追加の詳細を表示するにはその手順の横の矢印を

クリックします。手順の中には複数のタスク アクションが含まれるものもあります。すべてのアクションとそのステータスを表示するにはスクロール ダウンします。

## SFTP データストアでのファイルの管理

SFTP データストアのページは、SFTP を使用して Cisco Prime Collaboration Deployment サーバに移動された .iso および .cop ファイルを表示します。移行、インストール、またはアップグレードタスクでの使用のために Cisco Prime Collaboration Deployment サーバにファイルを置くには、sftp クライアントおよびログインを「adminsftp」として使用します（管理パスワードを自分のパスワードとして使用します）。

Cisco Prime Collaboration Deployment サーバに接続したら、移行またはインストールタスクで使用する .iso ファイルを /fresh\_install フォルダにアップロードします。アップグレードタスクで使用する .iso ファイルまたは .cop ファイルを /upgrade フォルダにアップロードします。タスクが完了したあと、.iso が別のタスクによって必要とされない場合、SFTP データストアから .iso ファイルを削除して Cisco Prime Collaboration Deployment サーバ上でスペースを節約することがベストプラクティスです。Cisco Prime Collaboration Deployment のアップグレード時または DRS バックアップの復元時に SFTP データストア内の .iso ファイルが多すぎる場合、Cisco Prime Collaboration Deployment サーバのスペースがなくなることがあります。

## Cisco Prime Collaboration Deployment の COW との使用

Cisco Prime Collaboration Deployment サーバおよび他の Unified Communications アプリケーションノードが WAN を介して通信している場合、最小の帯域幅 100M が推奨されます。

## 移行中のシーケンス

移行タスクが作成されると、インストール手順ごとにサーバが 1 つあるデフォルトシーケンスが提示されます。シーケンス画面の編集ツールは、1 つの手順に複数のサーバを配置するために使用できます。最適な結果を得るには、1 つの手順あたり最大 6 つのサーバを含めることをお勧めします。

## サーバの再アドレス付け

サーバの再アドレス付け機能を使用する場合、システムは各サーバの再アドレス付けの後に強制一時停止を適用します。サーバが正常に変更され、次の再アドレス付け手順に進む前に電話が再度登録されたことを確認してください。

# パブリッシャおよびサブスクライバのフレッシュインストール

フレッシュインストールタスク（新規UCクラスタ）に複数のサーバが含まれる場合、Cisco Prime Collaboration Deployment システムは最初に自動的に Unified CM パブリッシャをインストールし、パブリッシャのインストールに続いて一時停止を適用します。この一時停止により、ユーザは新規にインストールされたパブリッシャの Unified CM GUI に移動して [System（システム）] > [Servers GUI（サーバ GUI）] に他のクラスタサーバを追加できます。一度このクラスタにインストールされるすべてのサブスクライバ（Unified CM サブスクライバ、IM and Presence パブリッシャおよびサブスクライバ）が Unified CM パブリッシャ GUI に追加されると、ユーザは [Cisco Prime Collaboration Deployment Monitoring（Cisco Prime Collaboration Deployment モニタリング）] ページ上の [Resume（再開）] ボタンをクリックしてフレッシュインストールタスクの実行を再開できます。

## Unified CM および IM and Presence クラスタのフレッシュインストール

Unified CM および IM and Presence ノードの両方でフレッシュインストールを作成する場合、どの IM and Presence がパブリッシャであるかを必ず指定するようにしてください。後で、タスクを実行していて、サブスクライバインストールノードの Unified CM Publisher（[System（システム）] > [Server GUI（サーバ GUI）] ページ） エントリを許可するために Unified CM パブリッシャインストール後に停止する場合、IM and Presence パブリッシャがリストに追加する最初の IM and Presence サーバになることが非常に重要です。これにより、IM and Presence パブリッシャが IM and Presence の最初のノードとしてインストールされることを確実にします。

## Eメール通知

タスクにエラーが発生した場合、タスクは一時停止してユーザの介入を待機します。また、タスクによっては、手動介入を行えるように自動的にタスクシーケンスで一時停止します。タスク実行中に発生する可能性のある一時停止やエラーの通知を受けるために、タスク実行前に電子メール通知（標準オプション）を設定することをお勧めします。

## テスト電子メール

電子メール通知を設定する場合、[Send Test email（テスト電子メールの送信）] ボタンをクリックして、Cisco Prime Collaboration Deployment メールシステムが自分のメールサーバに送信可能であることを確認します。テスト電子メールを受信したことを確認します。これはタスク実行の前に実行する必要があります。